

科目名	音楽Ⅱ	履修学年	2 学年 (必修)・選択)
教科担任	北 森 康 義	単位数	2 単位
教科書名	MOUSA 2 (教育芸術社)	副教材	Music Navigation (教育出版) (音楽史・楽典・ノート)
教科目標	芸術の幅広い活動を通して、各科目における見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 芸術に関する各科目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付けるようにする。 (2) 創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようになる。 (3) 生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。		
科目目標	音楽の諸活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す (1) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解を深めるとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。 (2) 個性豊かに音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを深く味わって聴くことができるようになる。 (3) 主体的・協働的に音楽の諸活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。		
学習方法	音楽Ⅰで学んだ内容を基礎とし、発展させた学習を行います。具体的には器楽、歌唱による実技、鑑賞と分析批評、クロームブックを使った創作、音楽理論と音楽史による楽理です。1年次に時間が足りず、取り組めなかった単元も併せて学習を進めていきます。引き続き定期試験は行いません。単元ごとに筆記及び実技の試験を行います。		

科目全体の評価の観点及び方法

評価の観点		主な評価方法
①知識・技能	曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解を深めるとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けている。(評価の割合 3.5 割)	b 授業態度 c 課題・プリント d 小テスト e その他(課題達成表)
②思考・判断・表現	自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができる。(評価の割合 3 割)	b 授業態度 c 課題・プリント d 小テスト
③主体的に学習に取り組む態度	主体的・協働的に音楽の諸活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養っている。(評価の割合 3.5 割)	b 授業態度 c 課題・プリント

※評価方法【a 試験 b 授業態度 c 課題・プリント d 小テスト e その他】
特に重視する方法

年間学習計画

単 元	歌唱：曲想を感じ取って、曲にふさわしい発声で歌おう！！ ～Alleluja とハモネプ：チェリー（予定時数 11 ）
主な学習内容（活動）	発声練習に適した曲や親しみやすい曲、歌いやすい曲を通して、発声などの技能を身に付けながら、表現を工夫して個性豊かに歌うとともに、主体的・協働的に学習に取り組む意欲を高めます。
評価の観点と評価方法	① ・ 曲想と音楽の構造や歌詞との関わり及びその関わりによって生み出される表現上の効果について理解している。 ・ 創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な、曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、歌唱で表している。
	② ・ 音色、リズム、速度、旋律、テクスチュア、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したものと感受したものととの関わりについて考え、どのように歌うかについて独自の表現意図をもっている。
	③ ・ 曲想と音楽の構造や歌詞との関わり及びその関わりによって生み出される表現上の効果に関心をもち、主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。

単 元	音楽史：クローズアップ・マエストロ ” 情熱的作曲家：楽聖ベートーヴェン！！ ” （予定時数 9 ）
主な学習内容（活動）	L.v.ベートーヴェンの生涯をたどりながら、 それぞれの作品の特徴を理解し、魅力を味わいます。
評価の観点と評価方法	① ・ 曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり、及び音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わりについて理解を深めている。
	② ・ 音色、リズム、速度、旋律、テクスチュア、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したものと感受したものととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを深く味わって聴いている。
	③ ・ 曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり、及び音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わりに関心をもち、主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

単元	創作：構成を工夫した作品を作ろう！！ ～EDM（エレクトロニック・ダンス・ミュージック）～（予定時数 10 ）
主な学習内容（活動）	構成を工夫した作品づくりや、EDM の特徴を生かした作品づくりを通して、創作表現に必要な技能を身に付けるとともに、個性豊かな音楽作品をつくり出す面白さを体験します。
評価の観点と評価方法	① - 音素材、音を連ねたり重ねたりしたときの響き、音階や音型などの特徴及び構成上の特徴について、表したいイメージと関わらせて理解を深めている。 - 創意工夫を生かした創作表現をするために必要な、反復、変化、対照などの手法を活用して音楽をつくる技能、及び旋律をつくったり、つくった旋律に副次的な旋律や和音などを付けた音楽をつくったりする技能を身に付け、創作で表している。 ② - 音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように音楽をつくるかについて独自の表現意図をもっている。 ③ - 音素材、音を連ねたり重ねたりしたときの響き、音階や音型などの特徴及び構成上の特徴に関心をもち、主体的・協働的に創作の学習活動に取り組もうとしている。

単元	器楽：表現を工夫してリコーダーを演奏しよう！！ ～リコーダーアンサンブルの楽しみ～（予定時数 10 ）
主な学習内容（活動）	リコーダーの独奏やアンサンブルを通して、曲にふさわしい奏法を身に付けるとともに、音色や表現を工夫して個性豊かに演奏します。
評価の観点と評価方法	① - 曲想とリコーダーの音色や奏法との関わり及びその関わりによって生み出される表現上の効果について理解している。 - 創意工夫を生かした器楽表現をするために必要な、曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能、及び他者との調和を意識して演奏する技能を身に付け、器楽で表している。 ② - 音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように演奏するかについて独自の表現意図をもっている。

	③ ・曲想とリコーダーの音色や奏法との関わり、及びその関わりによって生み出される表現上の効果や、他者との調和を意識して演奏することに関心をもち、主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組もうとしている。
--	--

単元	鑑賞：日本の伝統音楽について知ろう！！ ～能・歌舞伎・文楽の世界～（予定時数 10 ）
主な学習内容（活動）	音楽Ⅰの延長として、日本の伝統音楽を鑑賞したり調べたりしながら、それぞれの特徴に対する理解を深めるとともに、その魅力を味わいます。
評価の観点と評価方法	① ・我が国や、郷土の伝統音楽の種類とそれぞれの特徴について理解を深めている。 ② ・音色、リズム、速度、旋律、テクスチュア、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさや美しさを深く味わって聴いている。 ③ ・我が国や郷土の伝統音楽の種類とそれぞれの特徴に関心をもち、主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

単元	器楽：和楽器に親しみ、表現を工夫して演奏しよう！！ ～箏の代表曲「六段の調べ」にチャレンジ～（予定時数 12 ）
主な学習内容（活動）	和楽器に親しみ、その音色や表現の特徴を味わうとともに、奏法を身に付け、音色や表現を工夫して個性豊かに演奏します。
評価の観点と評価方法	① ・曲想と和楽器の音色や奏法との関わり、及びその関わりによって生み出される表現上の効果について理解している。 ・創意工夫を生かした器楽表現をするために必要な、曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能を身に付け、器楽で表している。 ② ・音色、リズム、速度、旋律、テクスチュア、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように演奏するかについて独自の表現意図をもっている。 ③ ・曲想と和楽器の音色や、奏法との関わり、及びその関わりによって生み出される表現上の効果に関心をもち、主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組もうとしている。

単元	鑑賞：世界の舞台芸術を楽しもう！ ～オペラ・ミュージカル・バレエの世界～（予定時数 8 ）
主な学習内容（活動）	音楽Ⅰの延長として、世界の舞台芸術を鑑賞したり調べたりしながら、それぞれの特徴に対する理解を深めるとともに、その魅力を味わいます。
評価の観点と評価方法	① ・世界の舞台芸術における音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わりについて理解を深めている。
	② ・音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを深く味わって聴いている。
	③ ・世界の舞台芸術における音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わりに関心をもち、主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。